地域支援センター「みみらんど・郡山」

平成２９年度　きこえとことばの基本研修会

テーマ「教科学習における言葉の学びについて）」

去る１１月８日、本校において岡田　進教頭による、第３回きこえとことばの基本研修会が開催されました。長年の「国語」の教科指導を通して、「語彙」や「ことば」の指導、文章の読み取りという観点から具体的な指導例をもとにお話しをいただきました。

＜課題としてよくあげられていること＞

〇学習内容が定着しにくい。
〇経験と言葉の結びつきが弱い。
〇表面的な内容理解にとどまりがちである。

＜指導するにあたって＞

〇語句や表現の指導に終始しがちになってしまう。
〇時間が不足し、本来のねらいに迫ることができない。

講演の主な内容

～2つの課題を中心に～

１「語彙」「ことば」の指導という観点から
２　文章の読み取りという観点から

1.　「語彙」「ことば」の指導について

＜例＞国語の授業より、長文を読んでの読み取り場面

課題文：**「～和子をチンパンジーというあだ名で呼ばないように決めた」！**

＜質問内容＞「あだ名」という言葉の意味がわからない。

〇「和子」が人の名前を意味することや、人の名前であることに気づいていなかった。

→「和子が女性であること」、「チンパンジー」について確認する

「あだ名」の意味を確認する前に「これは失礼だ」と発言。物語の流れも意識できた。

＜物語の指導について＞

①「あらかじめ登場人物に関する語句を学習し、その意味やイメージをつかむ。
②大まかな話の流れをつかむ。（ワークシートなどで全体の流れを確認する）
③これらを指導の上、「読み」にはいる。

2.　文章の読み取りからみた課題

＜「矛盾」という言葉の意味＞

〇文章の読み取りから見た課題
・流れや面白さがわかっていない→　矛盾という言葉の意味の理解につながらない
・全体をとらえる力が育っていない
・部分的にまとめる力
・関連付けて考える力想像する、予測する力

「読むということ」に含まれる
２つの活動

① 語句・表現の意味を確認して理解する。
② 経験を結びつけ、予想したり行間を読んだりする。

「経験などと結び付ける」「これまでの内容をふまえる」「先を予想したりする」「行間を読んだりする」活動を意図的に取り入れていく。

・・・・・　状況に応じて正しく使っていてこその言葉　・・・・・

「桜の花の散る頃」「葉桜」のような表現。「楽しい」「悲しい」を使わずに別の表現で話す、書く経験。
「ことば」「表現」のイメージから、意味をとらえていくこともある。

：：：：：：：わかりやすく、実践の場ですぐに活用できるお話をいただきました。：：：：：